

Daisukeのフランスこんな小話（8）ドイツのような街、ストラスブール



今回はドイツのようなフランスのお話。不思議な不思議なお話をすることにいたしましょう。

フランス語にはありえない地名

いきなりですが、この上の写真を見てください。トラムの行先を表示した電光掲示板ですが、一番上と二番目の駅名を読んでみようとする、妙に口がモゴモゴと変な感じになりませんか？特にフランス語を学習中の方は「H」の扱いが分からない！と思われませんか？

では、次の写真。



「rue des
étudiants

(学生通り)」の下。何やら見慣れぬ文

字配列が...。「Stüdentegass」。ステュダン...スチュデ...ステュデンテガッス。な...何語?!
語尾に「ガッス」なんて、フランス語だったら絶対ありえない!

そんな独り言を口にしたいくなりませんか...?

ドイツとの国境の街

それもそのはず。ここはドイツとの国境の街、ストラスブール (Strasbourg)。



花と運河の街

。ドイツ国境沿いのアルザス地方で最大の街です。激動の歴史上、何度もドイツになったりフランスになったりを繰り返し、現在はフランスでありながら**ドイツの文化が色濃く残る街...**
。他国と陸地で国境を有さない日本出身の僕には、なんとも不思議な場所です。

ドイツの地名をフランス読み

アルザス地方の地名にはドイツ語名がそのまま残っていて、それを**フランス語風に発します**。
。例えば、一番上の写真の一番上に表記されていた「Hoenheim Gare」。この地名はドイツ語由来なのです。「heim」が特徴的です。ドイツ語で「家、住い、

家庭」という意味があります。ドイツ語であればホーエンハイムと読むのですが、フランス語ではエナイムになってしまうわけです。

Hoenheimの真下にある「Neuhof Rodolphe Reuss（ノイホフ ロドルフ ロイス）」という、とってもドイツ語的な響きを持つ名前。フランス語読みでは「ヌエオフ ロドルフ...」と、なんだかしっくりこない発音になってしまうわけです。

ドイツ由来の地名がたくさん

他にも、



水色のtram B

の横に書かれた行先「Lingolsheim（リンゴルシャイム）」。なにかこうフランス語らしからぬ地名ですよ。

そしてアルザス地方最大の都市「Strasbourg」もドイツ語では「Strasburg」と表記し「シュトラスブルク」と少しごつごつした感じ（個人の感想です）の音に変わります。

フランス名とドイツ名を併記

さて、そんなシュトラスブルク...いや、ストラスブールの街を歩いていると、通りの名前の多くに「フランス語名」と「ドイツ語名」の両方が表示されているのを発見できます。





フランスの街にいるのに、なんだか不思議な感じがしますよね。

たくさんの「国境の街」があるフランス

フランスは、周りをベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、スイス、イタリア、モナコ、スペイン、アンドラなど、多くの国と陸地で国境を有しています。



Googlemapより引用

それぞれの国境の街には独自の訛りや言葉があったり、文化や人も違います。地図を眺めながら、ここにはどんな言葉があるのかなあ、なんて考えるのも楽しそうですね。

今回ご紹介したアルザス地方を地図で探して、他にはどんな地名があるのか、おもしろい地名を発見したらぜひこっそりとDaisukeまで教えてくださいね！

では、本日はこのへんで... Auf Wiedersehen ! A très bientôt !

執筆 Daisuke

オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

